

マダニに注意!



マダニに咬まれないようにすることが重要です



特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意が必要となります。
草むらや藪などに入る場合は、肌の露出を少なくしましょう。

首にタオルを巻く
か、ハイネックの
シャツを着る

服の素材は化学繊維
などダニの付きにくい
ものを着る

シャツの裾は、
ズボンの中に入れる

フタゲチマダニ
(国立感染症研究所)



つばのある帽子

シャツの袖口は、軍手
の中に入れる

ズボンの裾に靴下を被
せ、靴の中に入れる

帰宅後は、衣服を家の外で叩いて、
マダニを家の中に持ち込まないよう
にしましょう。
また、体にマダニが付いていないかも
よく確認し、入浴やシャワーを浴びて、
吸着前に除くことも大切です。

他……

DEET(ディート)成分を含む虫除けスプレーの使用は、
補助的な効果があると言われています。



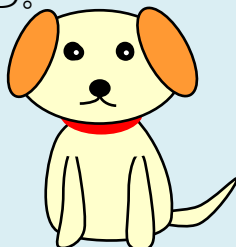
ペットの対策も!



ペットが外でマダニを付けて帰ってきた
後、家の中に入り込んでしまうと、そのマ
ダニに咬まれる危険性があります。

散歩から帰ってきた後や、家の中に入れ
る時には、ブラッシングなどをし、マダニ
が付いていないか確認しましょう。

また、獣医師に相談して、
ダニの駆除剤を使用するなど、
マダニを寄せ付けないように
することも効果的です。



もしマダニに咬まれたら



肌についたマダニを無理にとろうとしたり
手でいじると、マダニの体内にあるウイルス
や細菌を人体に注入してしまう可能性がある
ので、咬まれたままの状態、近くの皮膚科
や外科を受診しましょう。

マダニに咬まれた後、3週間程度は体調に
気をつけ、発熱、関節痛、頭痛、腹痛、
下痢など全身症状がある場合は内科を受診し
ましょう。

そのときは、いつ、どこを咬まれたかなど
も医師に伝えてください。

マダニによる感染症に注意しましょう！

宮崎県内では、マダニに咬まれることによって感染する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の報告数が、全国で最も多くなっています。

重症熱性血小板減少症候群とは？

SFTSウイルスを持ったマダニに咬まれることによって感染する病気です。

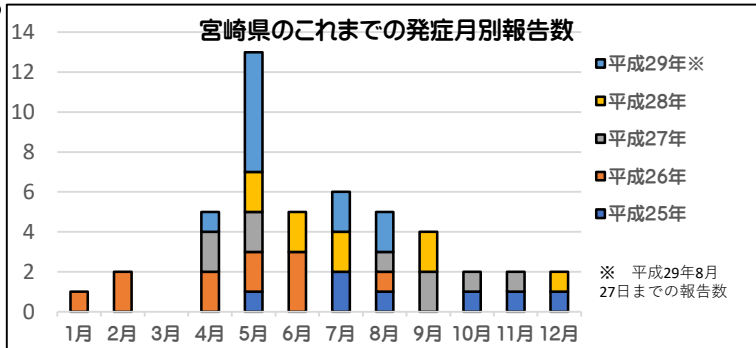
潜伏期間は、6日間から2週間程度です。

症状は、発熱、消化器症状（食欲不振、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）がみられ、時に頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状も出現します。

血液検査で、白血球や血小板の減少がみられることも特徴です。

宮崎県の発生状況

◎4月から9月にかけて多く発症しています。

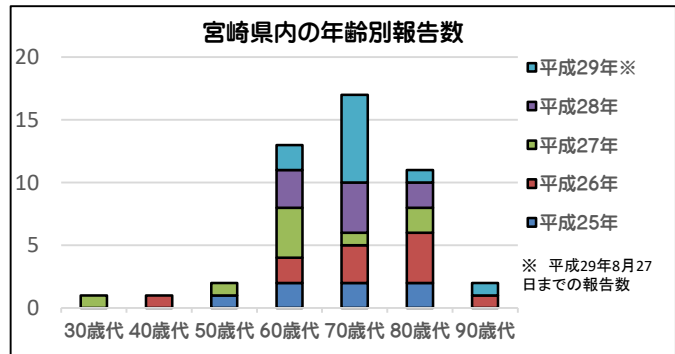


マダニは、春から秋にかけて活動が活発になるので、この時期の発症が多く報告されています。



◎60歳代から80歳代で多く報告されています。

宮崎県内では、これまで30歳代から90歳代までの報告がありますが、全国においては、小児の報告もみられています。

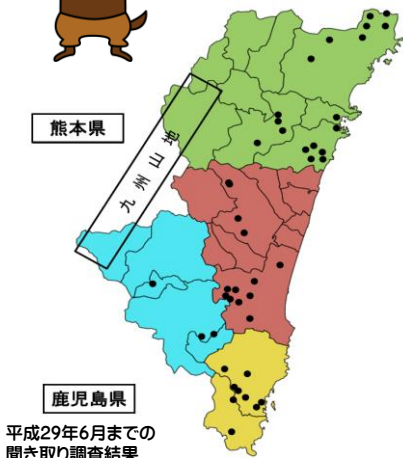


◎感染推定地は県北から県南まで幅広くなっています。

県衛生環境研究所において、患者さんへの聞き取り調査をもとに、感染推定地をまとめました。感染は、県北部から県南部まで幅広く起こっています。感染推定地周辺では、身近なこととして、また、その他地域においても感染は起こりうるので、県内全域で注意をお願いします。

患者さんからの聞き取りでは、農作業や山林作業での活動の他、庭仕事や散歩などでも感染が疑われる事例がありました。

身近な活動においても、感染予防対策は重要です。



平成29年6月までの聞き取り調査結果